

平成 24 年度
知床世界自然遺産地域における環境教育業務
報告書

平成 25 年 3 月
環境省釧路自然環境事務所
公益財団法人 知床財団

報告書概要

1. 業務名（英名）

平成24年度知床世界自然遺産地域における環境教育業務
(Environmental education in Shiretoko World Natural Heritage Site)

2. 業務の背景と目的

知床には、世界自然遺産地域の適正な利用を促進するため、斜里町ウトロ地区の「知床世界遺産センター」、羅臼町ルサ地区に「知床世界遺産ルサフィールドハウス」を整備しており、羅臼町湯ノ沢地区に整備している「知床国立公園 羅臼ビジターセンター」とも連携を図り、自然情報の発信やルールやマナーの啓発等を実施している。

これらの関連施設における情報発信は、パネルや映像等の施設の展示が中心となっているが、近年行なっているエゾシカ対策等は十分に紹介されておらず、また、ルサフィールドハウスでは、知床半島先端部地区の利用者からの情報の還元手法の検討が課題として挙げられている。さらに、世界自然遺産地域の適正な利用を効果的に推進するためには、ホームページ等で情報発信を行い、知床の自然情報やルール等に関する情報について、利用者にあらかじめ普及啓発を行うことが効果的である。

そこで、本業務では、知床世界自然遺産地域における関連施設等を活用した環境教育手法の開発を目的とし、(1) エゾシカ対策の普及啓発、(2) 知床半島先端部地区に関する情報収集および普及啓発、(3) ホームページによる情報発信に関する業務を実施した。

3. 事業の実施体制

本事業は、環境省からの請負事業として公益財団法人 知床財団が実施した。

4. 事業の手法・概要

(1) エゾシカ対策の普及啓発

釧路自然環境事務所を中心とした関係行政機関で取り組んでいるエゾシカの個体数調整、植生調査、防鹿柵の設置等の取り組みについて紹介したパネルを作成した。また、パネルとともにイーゼルを作成し、移動可能な展示形態とした。

(2) 知床半島先端部地区に関する情報収集および普及啓発

ルサフィールドハウス等において、知床半島先端部地区の利用者から、トレッキングルートやヒグマの出没状況、利用者自身のトレッキングの体験等の情報の還元を得るための普及啓発素材の作成を行った。また、知床半島先端部地区の自然条件や利用にあたり守るべき事項を効果的に周知するための普及啓発素材の作成を行った。これらの素材は、関連施設等で有効に活用できるよう、移動可能なものとした。

(3) ホームページによる情報発信

利用者に事前に知床世界自然遺産地域の利用拠点の自然情報やルール等を啓発するため、環境省担当官の指定するホームページの改修を行った。利用拠点としては羅臼

湖と羅臼岳・知床連山等を想定しており、羅臼湖についてはルートの変更や今年度策定利用のルール等に関して適切な周知できるような内容とした。また、羅臼岳・知床連山については、ニッ池におけるルートの変更が適切に周知出来るような内容とした。

5. 事業結果

(1) 普及啓発素材として、エゾシカ対策に関する普及啓発展示を作成した。釧路自然環境事務所を中心とした関係行政機関で取り組んでいるエゾシカの個体数調整、植生調査、防鹿柵の設置等の取り組みを紹介するパネルのほか、エゾシカに関する基本的な生態を解説したパネル、エゾシカが知床の植生に与えた影響について解説したパネルの計 3 枚のパネルを作成した。また、エゾシカの剥製のリニューアル、エゾシカに関するクイズ冊子の作成を行い、来館者がエゾシカの生態および環境省等関係行政機関が実施するエゾシカ対策への理解を深めることのできるエゾシカ展示コーナーを新設した。普及啓発素材の作成にあたっては、関連施設等で有効に活用できるよう、移動可能なものになるよう配慮した。

(2) 知床半島先端部地区の自然条件や利用にあたり守るべき事項を効果的に周知するための普及啓発素材の作成を行った。素材作成にあたっては、これまで課題だった知床半島先端部地区利用者からの情報収集、および得られた情報を利用者に対して還元するための冊子もあわせて作成した。展示は、移動または組み替え可能な木製の箱を積み重ねた立体感のあるものとした。また、来館者が見過ごさず、実際に展示物を手にとったり、新設した冊子を読んでもたくなるような仕掛けになるよう工夫した。

(3) ホームページによる情報発信にあたっては、環境省担当官の指定に基づき、羅臼ビジターセンターのホームページの改修を行なうこととした。羅臼ビジターセンターのホームページでは、平成 25 年度から一部変更となる羅臼湖までの歩道、および知床連山縦走路のニッ池ルートについて、利用者に適切な情報提供を行なうために一部改修を行なった。羅臼湖については、既存の概要に加え、変更されたルートやバス停、新たに策定された利用のルール等について周知する構成とした。また、羅臼岳・知床連山については、既存の概要のほかにニッ池におけるルートおよび野営地の変更について新たなページを作成した。

6. 今後の予定

特になし

7. その他

特になし

目次

1.	はじめに	1
2.	業務の内容	2
1)	エゾシカ対策の普及啓発	2
2)	知床半島先端部地区に関する情報収集および普及啓発	2
3)	ホームページによる情報発信	2
4)	打ち合わせ	2
3.	業務実施結果	3
1)	エゾシカ対策の普及啓発	3
	エゾシカ対策に関するパネル	3
	エゾシカ剥製のリニューアル	8
	エゾシカに関するクイズ冊子	9
2)	知床半島先端部地区に関する情報収集および普及啓発	11
	先端部地区利用に関する普及啓発素材	13
	先端部地区利用者からの情報収集および最新情報還元のための素材作成	14
3)	ホームページによる情報発信	16
4.	まとめ	24
5.	資料	25

1. はじめに

知床世界自然遺産地域においては、地域内の適正な利用を推進するため、斜里町ウトロ地区に「知床世界遺産センター」、羅臼町ルサ地区に「知床世界遺産ルサフィールドハウス」が整備されている。これらの施設は、羅臼町湯ノ沢地区に整備している「知床国立公園 羅臼ビジターセンター」とも連携を図り、自然情報の発信やルールやマナーの啓発等を実施している。

それぞれの施設では、パネルや映像を中心とした展示を行っているが、情報発信の面でいくつかの課題も残されている。まず、近年環境省等が実施しているエゾシカ対策についてはどこの施設においても十分に紹介されていないこと、次に、ルサフィールドハウスにおける知床半島先端部地区の利用者からの情報の還元手法が確立されていないことである。

また、世界自然遺産地域の適正な利用を効果的に推進するためには、知床の自然情報やルール等に関する情報、速報性を必要とする情報について、ウェブを通じて利用者にあらかじめ分かりやすく普及啓発を行うことが効果的である。

そのため本業務では、環境教育として、エゾシカ対策に関するパネル展示の作成、ルサフィールドハウスにおける知床半島先端部利用者からの情報還元システムの作成、および先端部地区における自然条件や利用のためのルール等の効果的な普及啓発素材の作成、羅臼ビジターセンターホームページの一部リニューアルを実施した。

2. 業務の内容

1) エゾシカ対策の普及啓発

近年、釧路自然環境事務所を中心とした関係行政機関で取り組んでいるエゾシカの個体数調整、植生調査、防鹿柵の設置等の取組を関連施設等で紹介するための普及啓発素材の作成を行った。

2) 知床半島先端部地区に関する情報収集および普及啓発

ルサフィールドハウス等において、知床半島先端部地区の自然条件や利用にあたり守るべき事項を効果的に周知するための普及啓発素材の作成を行なった。また、知床半島先端部地区の利用者から、トレッキングルートの状況やヒグマの出没状況、利用者自身のトレッキングの体験等の情報の還元を得るための普及啓発素材の作成を行った。

3) ホームページによる情報発信

利用者に事前に知床世界自然遺産地域の利用拠点の自然情報やルール等を啓発するため、環境省担当官の指定するホームページの改修を行った。改修は、H25 年度から変更となる羅臼湖と羅臼岳・知床連山等について主に行なった。

4) 打ち合わせ

本業務の実施にあたり、環境省担当官と打合せを行った（資料、資料 5-2）。

3. 業務実施結果

1) エゾシカ対策の普及啓発

普及啓発素材として、エゾシカ対策に関する普及啓発展示を作成した。近年、釧路自然環境事務所を中心とした関係行政機関で取り組んでいるエゾシカの個体数調整、植生調査、防鹿柵の設置等の取り組みを紹介するパネルのほか、来館者が個体数調整について理解するために不可欠であるエゾシカに関する基本的な生態を解説したパネル、エゾシカが知床の植生に与えた影響について解説したパネルの計 3 枚のパネルを作成した。また、エゾシカの剥製のリニューアル、エゾシカに関するクイズ冊子の作成を行い、併せて来館者がエゾシカの生態および環境省等関係行政機関が実施するエゾシカ対策への理解を深めることのできるエゾシカ展示コーナーを新設した（写真 1）。普及啓発素材の作成にあたっては、関連施設等で有効に活用できるよう、移動可能なものになるよう配慮した。

エゾシカ対策に関するパネル

パネルは 3 枚 1 組で、それぞれエゾシカの生態、知床におけるエゾシカに関する問題、環境省が知床において実施しているエゾシカ対策をテーマとしている。パネルは、長辺 1,239mm×短辺 891mm のアクリル板 2 枚の間に展示物を挟み込む形式を採用し、内部の展示物は必要に応じて追加や更新ができるよう配慮した。

また、各パネルはこれまでビジターセンターなどの展示施設で主流だった固定式ではなく、持ち運びが可能となるよう、専用のイーゼルに設置する展示方式を採用した。これにより、羅臼ビジターセンター以外の場所へ自由に持ち運ぶことが出来るようになり、館内外でエゾシカやエゾシカ対策に関する普及啓発を行う際に活用することが可能である。

また、パネルを設置したイーゼル（写真 2）もパネルにあわせて作成した。イーゼルは同一の設計のものを 3 脚作成した。材には、知床で見られる樹種、キハダ、ハルニレ、ミズナラを使用し、エゾシカによる選好性の高い樹種（キハダ、ハルニレ）と、選好性の高くない樹種（ミズナラ）を用い、エゾシカによる生態系への影響に関する解説の際に活用できるよう配慮した。



写真 1 羅臼ビジターセンター新設されたエゾシカ展示コーナー



写真 2 作成したイーゼル

パネル1「知床のエゾシカ」

一つ目のパネルには、知床半島における個体数調整等のエゾシカ対策に関して解説を行う際に不可欠な、知床で見ることができるエゾシカの基本的な特徴や生態に関する情報を掲載した。エゾシカの分類学上の位置付け、体サイズ、角と年齢の関係、食性、出産や繁殖期の行動など季節によって変わるエゾシカの行動、妊娠率、胃の構造などの内容について、来館者にとって分かりやすい平易な文章で解説した。また、パネル2で主に解説を行う、知床におけるシカが引き起こす問題への導入として、冬期の樹皮食いに関して記述した。エゾシカの体サイズについては、シートをめくることで人間やホンシュウジカ、ヤクシカと比較できる、ハンズ・オンの要素を盛り込んだ（写真3）。

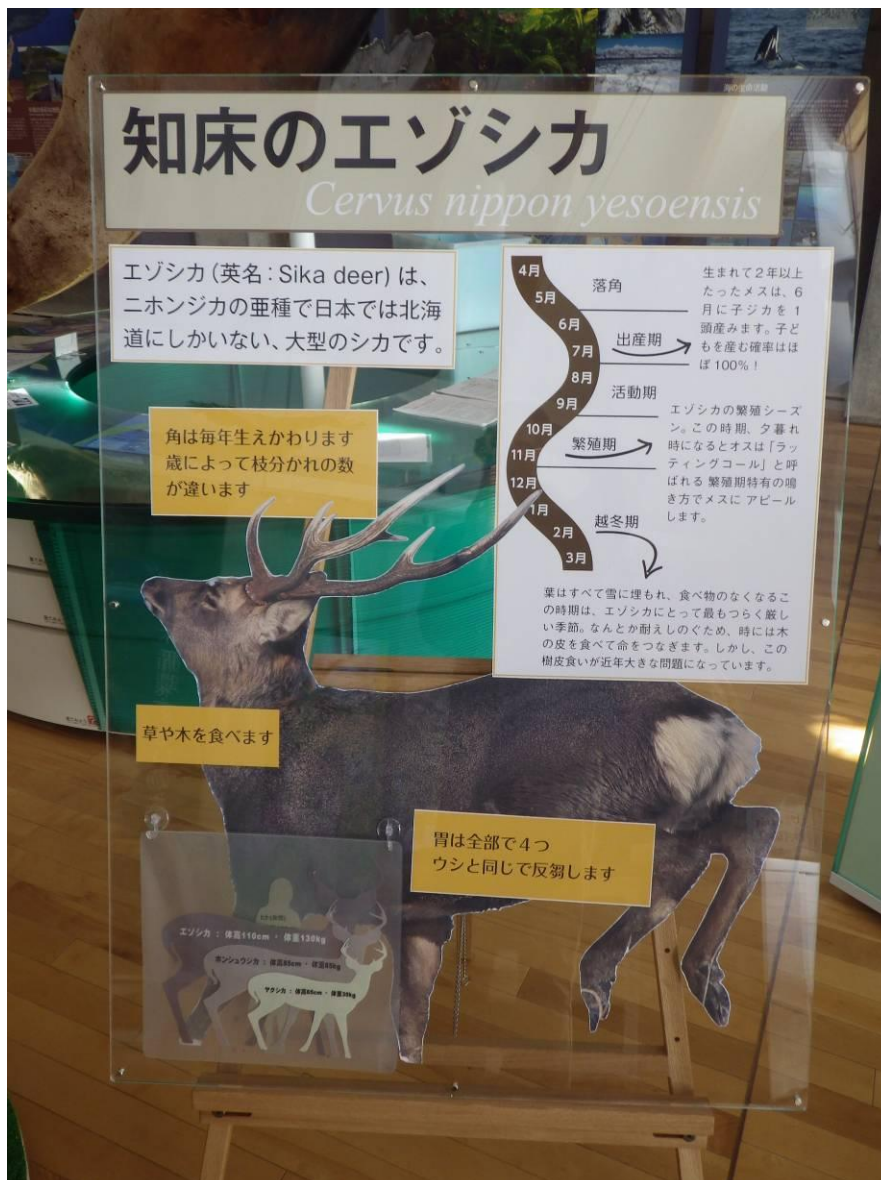


写真3 パネル1「知床のエゾシカ」

パネル2「エゾシカが変えた植生」

二つ目のパネルには、知床のエゾシカ対策が行われる理由を解説するために不可欠な、エゾシカが知床半島の植生に与えている影響に関する情報を掲載した（写真 4）。エゾシカに起因する植生の変化に関する現状を説明した上で、知床岬を例にとり、航空センサスによるエゾシカの頭数のモニタリング結果から得られた頭数の推移、ハンゴンソウが多く見られるようになった知床岬の台地上の植生の変化、樹皮食いとその影響、環境省や関係行政機関が設置している防鹿柵や植生調査などの取り組みについて、平易でわかりやすい言葉を用いて解説している。各要素は、知床岬の台地上を撮影した1枚の写真を解説するように配置され、必要に応じて図表を挿入した。これらの図表はそれぞれ独立しており、今後航空センサスのデータなどが蓄積していった際には、容易に更新をすることができる。



写真 4 パネル2 「エゾシカが変えた植生」

パネル3「知床でのエゾシカ対策」

三つ目のパネルでは、環境省が知床半島で実施しているエゾシカ対策について解説した(写真5)。シャープシューティング、ヘリコプターや船でアクセスする知床岬でのエゾシカ捕獲、大規模仕切り柵を用いた巻狩り、囲いわなによるエゾシカ捕獲など様々な捕獲手法の紹介、捕獲の経過、知床岬で徐々に現れてきた捕獲の効果について、来館者にとって分かりやすい平易な言葉で解説した。



写真5 パネル3 「知床でのエゾシカ対策」

エゾシカ剥製のリニューアル

羅臼ビジターセンターにはトドやヒグマなど、知床で見ることが出来る哺乳類の剥製が展示されており、来館者に人気を集めている。一方で、より観察が容易なエゾシカの剥製の展示はこれまでなく、来館者からの要望や問い合わせも多くあった。

そこで今回、移転前の羅臼ビジターセンターに展示されていたが、移転後は展示されず羅臼研究支援センターに保管されていたエゾシカの剥製のリニューアルを行った。剥製の移動が容易になるよう、剥製の足の部分に土台と車輪を取りつけた。また、剥製の周辺にはエゾシカの嗜好性が比較的高い植物（エゾカンゾウ、ヒオウギアヤメ）と嗜好性が比較的低い植物（ハルザキヤマガラシ、ハンゴンソウ）の絵が描かれたパネルを配置した（写真 6）。このパネルの裏には、エゾシカの植性に関するクイズの回答が書かれており、来館者が触れて楽しむことが出来る。また、より剥製展示に親しんでもらうために、エゾシカの名前を募集するパネルを剥製の角に設置し、来館者がエゾシカの名前を書き込むことが出来るハンズ・オン形式の展示とした（写真 7）。



写真 6 エゾシカの剥製に土台と車輪をつけ、周辺にクイズ用の植物パネルを配した。



写真 7 来館者がエゾシカの名前を書き込める展示

エゾシカに関するクイズ冊子

来館者がエゾシカの生態について楽しみながら理解してもらうため、エゾシカに関するクイズ冊子を作製し、エゾシカの剥製の首の部分に設置した（写真 8）。クイズはエゾシカの角、食性、糞、分類に関するもので、来館者は実際に剥製を見ながらクイズに挑戦することが出来る（図 1）。食性に関するクイズは、剥製の周辺に配した植物の絵のパネルを見ながら回答し、パネルの裏を見る事で正解がわかるようになっているほか、分類に関するクイズでは、実際にエゾシカの剥製の足を見ることで、エゾシカが属する偶蹄目の特徴である蹄の形を確認することが出来るなど、ハンズ・オン要素の高いものとした。



写真 8 エゾシカに関するクイズ冊子

エゾシカ・クイズ

やあ、はじめまして！ほくは、
 知床生まれ・知床そだちの2才になる美少年さ☆
 みんなでいえぼ中学生くらいのおとしごろだね
 ここでほくたちの紹介してほしいとたのまれちゃっ
 たからやってきたよ(´ω´)
 ほくのクイズに答えながら、ほくたちエゾシカのこと
 をよく知ってもらいたいな！
 よろしく♪

A.1

せいかりは…**せんぶ**なんだ！
 おとなになってもほくらのツノは1年でおちて毎年はえかわるんだ。


①はる、ツノがおちたすぐあと
 ②はツノのはえはじめ
 ③せいちょう中…
 ④なつ、できた袋角ふくらつ角
 ⑤あき、ふくろがはがれた**枯れ角**かわつ角

枯れ角って？
 …とおもったら、ひだいのひきだしをあけてみてね！

Q.2

ほくのすきなたべものはどれでしょう？
足もとのくさむらからおいしいそうなのをえらんでくれよ。
 なつにはくさを、ふゆには木のかわをたべるからほくのすきな木のかわもえらんでね。
(こたえはウラに書いてあるよ)

ふゆはくさをたべるのもひと苦労だぜ…



Q.1

ほくのツノはまだちいさいけど、ほくのパパのツノはどれでしょうか!?
(こたえはつぎのページ)

① 

② 


③ 


④ 


⑤ 


Q.3


さて、おしょくじしたばかりのみんなにはごめんなさい。いっぱいたべるとやっぱりでちゃうのさ(´；)
 ほくのウンチはど～れだ?? 2つあるよ。わかるかな?

① 

② 

③ 

④ 

⑤ 

こたえは↓

A.3

せいかりは…**①と④**だよ！
 ①はほくらのなつものウンチ。
 ④のコロコロしたウンチが有名だけど、みずみずしい草をたべるなつはこんなべっぴんしたウンチをするんだ。

ヒゲやまのうんちとまもがわかるけど、ほくのうんちもはだかんに触れなくてもまもをいれコロコロがあるから、よく見てみてね

ほかのウンチはね、
 ②ヒゲマ、③時々時々な、
 ⑤エゾシカウサギのみなさんの、

ふゆのうんちはウサギさんとにているけど、色でみ分けられるよ→
 こい色のがほくの、うすい色のがウサギさんのだ



Q.4


ほくの足のゆびはいくつだ?!
足もとを見てかぞえてみてくれ!
 こたえはつぎのページにあるけど、ちゃんと、かぞえてからめくるんだぞ(´ω´)

ちゃんとみてるぞw



A.4

さ～て、わかったかな? 2ほんだと思ったきみ! さんねん!!
 せいかりは……**4ほん**でした(´▽´)b
 2ほんのひづめのうえについでに、つばいも副蹄ふくていというゆびで、足あとにもちゃんとつくんだ。だから、ほくらがどっちにあるかたかハッキリわかってちゃうよ。


ひだれにあるのがわかるかい? 1ほん  4ほん
 ← まえ うしろ 2ほん 3ほん

ほくらは副蹄ふくていという、ゆびが副蹄のなみだけだ。あなたもかまのウサギやウサギさんには2ほんしかないんだ! ほんにもちそうならだなのに、ゆびはほんだけなんてたいへんそうだよ(´；)

うしろに知床であえるほかのなかまたちの足あともあるよ!
 足あとを見ただけでわかっちゃうなんてみんなにじまんでるぜ☆

これでクイズはおわりだよ。

ほくらについてはじめてしたことあったかな?
 それならほくがここにきたかきもあるってもんだ!
 パネルではもっとくわしくほくらのことをかいてくれるからよんでいってね☆



それでは、またあう日まで(´▽´)/
 外で見かけたらさわったり、エサをあげたりしないで
 やさしくみまもってください。

図 1 エゾシカに関するクイズ冊子の内容

2) 知床半島先端部地区に関する情報収集および普及啓発

先端部利用に関しては、配布物としての「知床半島先端部地区 利用の心得」やウェブサイト「シレココ」がある。本事業では、これらに掲載されている普及啓発の要素をルサフィールドハウスにおける「展示」という形に変え、訪れる来館者に対してより効果的に先端部地区の自然状況とその利用について伝えるコーナーを新設した（写真 9）。また、これまで課題だった知床半島先端部地区利用者からの情報収集、および得られた情報を利用者に対して還元するための冊子「到達本」を作成した（写真 10）。

展示は、既存の壁面における展示と差別化し、移動または組み替え可能な木製の箱を積み重ねた立体感のあるものとした。また、来館者が見過ごさず、実際に展示物を手にとったり、新設した冊子を読んでもみたくなるような仕掛けになるよう工夫した。

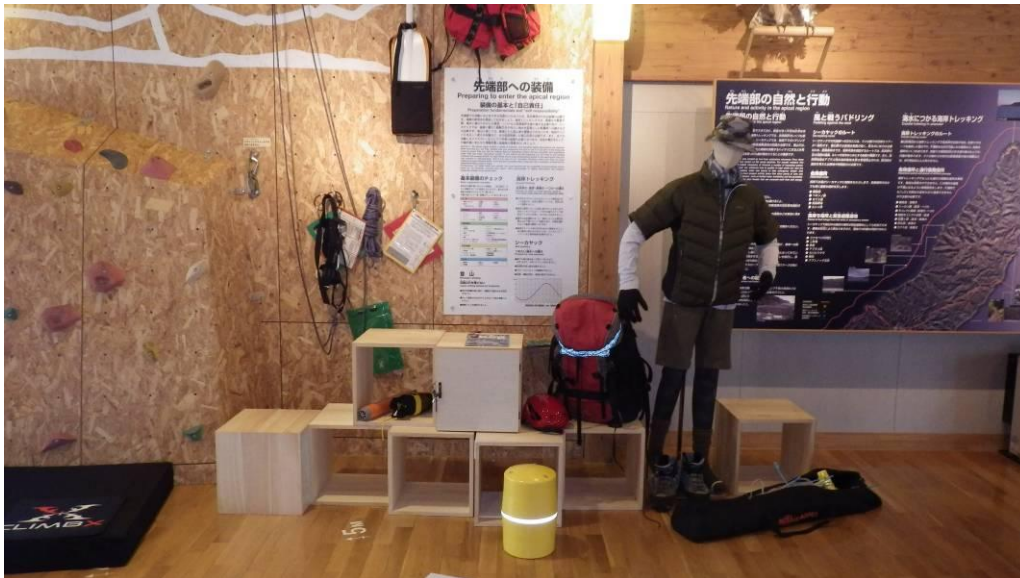


写真 9 岬トレッキングに関する普及啓発コーナー



写真 10 先端部地区利用者からの情報収集のための冊子「到達本」

先端部地区利用に関する普及啓発素材

ルサフィールドハウスには、先端部地区のトレッキングルートに必要な装備や難所に関するパネルが既存の展示として存在する。本事業では、これら既存の展示物と連動し、来館者に対して、先端部地区利用に関する普及啓発を行なうことを目的とした展示を作成した。ザックやヘルメット、登山靴など先端部地区利用に必要な装備や服装については、マネキンを用いて展示したほか、フードコンテナやヒグマ撃退スプレー、携帯トイレなど今まで館内で展示していたものについても、新設コーナーにまとめて展示した。展示には、移動および組み替え可能な木製の箱を使用し、展示全体を立体的に表現して来館者の目にとまりやすいような構造とした。フードコンテナについては、一緒に米や行動食を展示し、どの程度食糧が入るか実際に来館者自ら詰めてもらえるようなハンズ・オンの形式とした。

コーナーには、先端部地区利用に際して事前知っておくべき知識と装備、またトレッキングルート上の難所の情報について記載した「攻略本」という冊子を設置した。この冊子は、岬トレッキングを経験したことがない人が読むことを想定しており、利用に際して必要な装備や難所の情報について、読者に読みやすく分かりやすいように主にイラストを使用した記述構成とし（写真 11）、より詳細な説明は、既存のパネル展示で取得できるよう配慮した。冊子は、大きく分けて先端部利用にあたっての心構えと事前準備に関する前篇と、先端部地区における難所に関する後篇にわけて構成されている。前篇では、先端部利用にあたっての遵守すべきルールやマナーについて周知する内容とし、またヒグマに関する基礎知識やヒグマ対策における必須道具、ヒグマとの遭遇事例を記載した。後篇では、岬トレッキングルートの難所について記載した。赤岩以降の知床岬に関する内容はあえて記載せず、「到達本」でのみ見られるような構成とした。「攻略本」を最後まで読んだ来館者は、最終頁で「到達本」が入っている箱の鍵を入手することができる。このように「到達本」は「攻略本」を最後まで読んだ人だけが読めるようになっており、「到達本」が単なる記録ノートに終わらない仕組みとした。



写真 11 「攻略本」の一部

先端部地区利用者からの情報収集および最新情報還元のための素材作成

ルサフィールドハウスでは、施設に立ち寄った先端部地区の利用者から先端部利用に関するヒアリングを行ない、先端部地区の最新情報の収集に努めている。しかしながら、その情報を、これから先端部地区を利用しようとする来館者に対して還元する手法が確立されていないという課題があった。そこで、利用者から聞き取った先端部地区のリアルタイムな情報を来館者に提供するための冊子を作製した。

この冊子「到達本」は、実際に岬までのトレッキングを経験した人が、自ら歩いて得られた難所の最新の状況やヒグマの目撃情報などを書き込める仕様となっている(写真 12)。それらの記録を書き込むための先端部の地図も冊子とともに設置し、年度ごとに追加してファイリングしていく形とした(写真 13)。「到達本」は鍵付きの箱に格納し(写真 14)、事前に習得すべき知識を得るための「攻略本」を全て読み終えた人だけが箱を開けて読めるようにするなどゲーム性を持たせ、来館者の参加型展示とした。

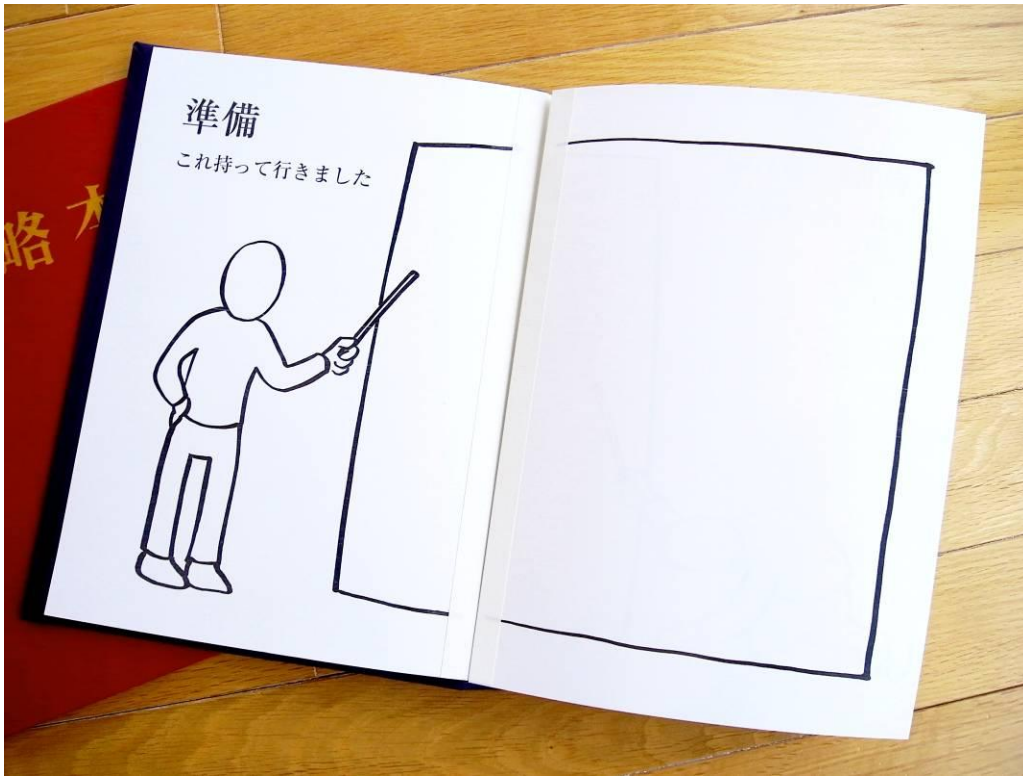


写真 12 「到達本」の一部。岬に行ってきた人が書き込む形式



写真 13 岬へ行った人たちが最新情報を書き込む地図



写真 14 「到達本」が入っている鍵付きの箱

3) ホームページによる情報発信

ホームページによる情報発信にあたっては、環境省担当官の指定に基づき、羅臼ビジターセンターのホームページの改修を行なうこととした。羅臼ビジターセンターのホームページでは、周辺の自然情報や登山道の概要等羅臼の自然やその利用に関する情報提供を行なっている。平成 25 年度から一部変更となる羅臼湖までの歩道、および知床連山縦走路のニッ池ルートについて、利用者に適切な情報提供を行なうためにホームページの一部改修作業を行なった。羅臼湖については、既存の概要に加え、変更されたルートやバス停、新たに策定された利用のルール等について周知する構成とした(図 2、図 3、図 4、図 5、図 6)。また、羅臼岳・知床連山については、既存の概要のほかにニッ池におけるルートおよび野営地の変更について新たなページを作成し、周知する構成とした(図 7、図 8、図 9)。

改修するにあたり、羅臼湖や知床連山登山道に関する最新情報も提供できるよう、ブログ形式で更新する「最近の羅臼湖」「最近の知床連山」をそれぞれ設置した。また、ホームページ閲覧者がこれら羅臼湖や知床連山の情報を含め、知りたい情報がスムーズに入手できるようにホームページのトップ画面の再整理も行なった(図 10)。



図 2 羅臼湖の歩道全体とバス停の位置を示したページ

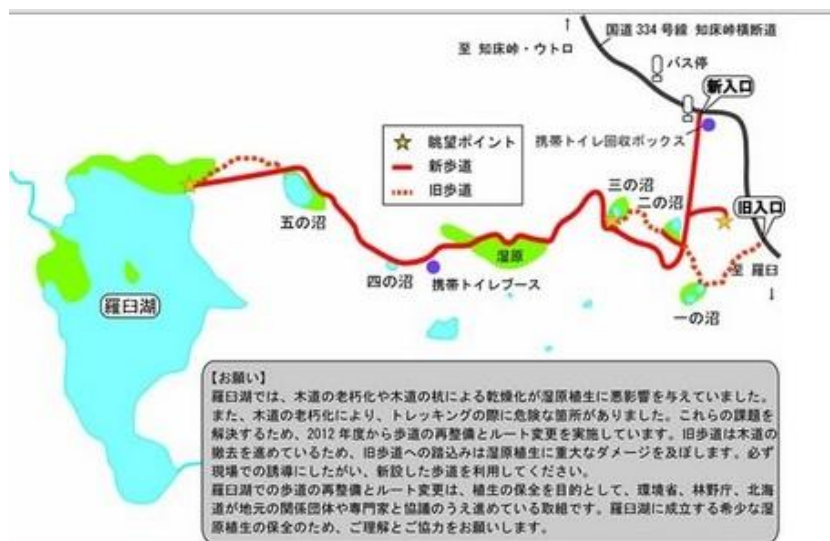


図 3 羅臼湖の旧歩道および新歩道を示した箇所

知床世界自然遺産・知床国立公園
 羅臼ビジターセンター
 北海道 羅臼町 羅臼 3 丁目 1 番 27 号 TEL (0155) 87-2328

HOME 館内のご案内 アクセス ルール&マナー ヒグマとの共存 知床・羅臼の見どころ案内

HOME > 羅臼湖 > 羅臼湖ルール

羅臼湖

知床別岳の麓に水を湛える知床半島最大の湖、羅臼湖。湿原植物の色、動物たちの声、山岳が映る湖面が推れる。

羅臼湖ルール

ぬかるみで泥まみれ?!

長靴で快適トレッキング

●羅臼湖の歩道にはぬかるみがあり、長靴は必須です。天候などの状況によっては、ひざ下まで埋まるぬかるみもあります。

ぬかるみを避けて歩くと、歩道脇の植物を傷めることになります。植生保全のため必ず長靴を着用し、歩道の中央を歩くようお願いします。

<長靴レンタル>
 羅臼：知床倶楽部 ウトロ：知床自然センター

○外来種の持ち込みを防ぐため、靴裏の種子は除去するよう、お願いします。
 ○ストックはできるだけ使用せず、使用する場合は必ず先端にキャップをつけてください。




トイレに行きたい! 大ピンチ?!

携帯トイレとトイレブース

●ルート上にトイレはありません。事前に済ませておくが、携帯トイレをご持参ください。携帯トイレを使用する場合は、湿原と四の沼の間に携帯トイレブースが、入口に使用済み携帯トイレ回収ボックスがあります。景観と植生保全のため、ご協力をお願いします。

携帯トイレ使用方法

1. 開封する	2. 底面を広げる	3. 使用にセットする
4. [Image]	5. [Image]	6. [Image]

図 4 羅臼湖ルールを記載したページ (1/3)

ヒグマにばったり
さあ大変！

声出しとクマスプレー

●ルート上ももちろんヒグマの生息域です。危険な突発的出会いをしてしまわないよう、声や音を出すなどして、ヒグマに人の存在を知らせてください。また、事前の情報収集を行い、クマスプレーや鈴を携行しましょう。

<クマスプレーレンタル>

当ビジターセンター、知床自然センターなど

<ヒグマの基本知識、対策法など>

<http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/bear/index.html>

- ヒグマの誘因を避けるため、飲食物の持ち込みは最低限にとどめ、ゴミは必ず持ち帰しましょう。
- ヒグマを刺激してしまう危険性があるため、ベトは連れて歩かないでください。



夏なのに
寒い？！

雨具と防寒着

●羅臼湖周辺の環境は、高い木など風や陽を遮るものが少ないため、北寄りの風が吹くと互でも寒くなり防寒着が必要になります。逆に暗れて南寄りの風が吹くときは熱くなります。どちらでも対応できるように、準備をしましょう。また、夏場は大変霧がかかりやすくなります。気温が下がるため寒く、霧でも服は濡れるので、十分な装備が必要です。



採るな！
踏むな！

そっと見守って

●草花や樹木、石、昆虫などの動物を採取したり腐つけたりしないでください。自然のものは自然のまま、近づきすぎないようにそっと見守ってください。

○植生を保全し、羅臼湖の魅力を存分に楽しむために、1グループの人数は10人程度にとどめてください。団体の場合はグループに分け、同じ場所に大量が集まらないよう配慮してください。



図 5 羅臼湖ルールを記載したページ (2/3)

採るな！
踏むな！

そっと見守って

- 草花や樹木、石、昆虫などの動物を採取したり傷つけたりしないでください。自然のものは自然のままで、近づきすぎないようにそっと見守ってください。
- 植生を保全し、羅臼湖の魅力を存分に楽しむために、1グループの人数は10人程度にとどめてください。団体の場合はグループに分け、同じ場所に大勢が集まらないよう配慮してください。



車はどこに
止めれば・・・?!

駐車しないで

- 入口に駐車場はありません。知床峠に駐車して入口まで徒歩か、路線バスやハイヤーなどを利用してください。路上駐車は多くの方に迷惑がかかる上、交通安全上の危険があります。絶対にしないでください。
- 詳しくは、[【羅臼湖への行き方】](#)のページをご覧ください。






このサイトについて | プライバシーポリシー

Today: 130 Yesterday: 198 Total: 250397

図 6 羅臼湖ルールを記載したページ (3/3)

知床世界自然遺産・知床国立公園
羅臼ビジターセンター

北海道白糠郡羅臼町湯ノ沢6-27 TEL.(0153)87-2828

HOME 館内のご案内 アクセス ルール&マナー ヒグマとの共存 知床・羅臼の見どころ案内

HOME > 羅臼岳・知床連山

羅臼岳・知床連山

百名山の一つ、羅臼岳。その羅臼岳から連なる知床連山は、知床半島の奇形。一歩踏み入れば、知床の雄大な地の息吹が感じられる。

最近の羅臼岳・知床連山

羅臼ビジターセンターがお届けする最近の羅臼岳・知床連山情報



ただいまお知らせはありません。

羅臼岳・知床連山ってどんなところ？



【注意】
2012年よりニツ池のルートが変更になりました。
詳しくはコチラをご覧ください。
(羅臼岳・硫黄山・知床連山に登る方へ)

※登山計画には、登山地図や地形図、各種ガイドブックで詳細な情報を得てください。

図 7 知床連山の登山道および野营地、携帯トイレブース等を示したページ

済み携帯トイレ回収ボックスが設置されています。また、携帯トイレは当センターや知床世界遺産センター、知床自然センターなどで販売しています。

ニツ池 野営地の一つでもあるニツ池周辺は、2012年より新しいルートに切り替わりました。ニツ池周辺は知床連山の中でも数少ない湿原で、希少な植物の生息地ですが、雪解け水の流入で水路化し、登山者がぬかるみを避けることで複線化していました。複線化による湿原植生のダメージを防ぐため、ハイマツ帯にルートを変更しています。植生保全のため、天の池西側に新設されたルートをご利用ください。

※地図はクリックすると大きく表示されます。



図 8 ニツ池の新ルートおよび野営地を示した箇所



図 9 ニツ池の新ルートおよび野営地を示した拡大図



図 10 構成を整理したトップページ

4. まとめ

本事業において、新たな環境教育素材としてのエゾシカ対策の普及啓発展示、ルサフィールドハウスにおける知床半島先端部地区に関する情報収集および普及啓発コーナーの新設、羅臼ビジターセンターホームページの一部リニューアルを実施した。

エゾシカ対策の普及啓発展示や、ルサフィールドハウスにおける知床半島先端部地区に関する情報収集および普及啓発コーナーは、これまでの固定型パネルや映像機器を中心とした展示物では難しかった、移動可能な展示物となっており、他の施設での展示や他の場所での教育活動を行う場合にも持ち運び可能である。さらに、利用者とのインタラクティブなやりとりが可能な作りも意識されており、利用者に、見てみたい・触ってみたいと思ってもらえる仕掛けが考慮されている。これらの展示物によって、既存の展示だけでは素通りされがちだった利用者の層にも普及啓発を行っていくことが可能と考える。

エゾシカについては、知床を訪れた人たちの多くが目にする動物である一方で、エゾシカ対策に関する展示物等は多くはなかったため、これまでもたびたび来館者から質問がある事項であった。本事業において作成した展示によって、エゾシカ対策についての普及啓発を効果的に行うことが可能となる。

知床半島先端部地区に関する情報収集および普及啓発コーナーについては、先端部地区利用に関する新たな普及啓発素材と、実際に先端部地区に行った人から情報収集し、最新情報を還元するための展示が作成された。ハンズ・オンや立体的に工夫された展示に加え、今回作成した展示物には、利用者からの情報が集まっていくことによって完成されていく展示もある。このため、本事業において作成した展示について、今後も利用者とのやりとりを行いながら随時改修や更新を行っていく必要がある。

また、ホームページのリニューアルを通して、知床の自然情報やルール等に関する情報について、これまで以上にウェブを通じて利用者にあらかじめ分かりやすく普及啓発を行うことが可能となった。羅臼湖歩道と羅臼岳登山道・知床連山縦走路は、知床を訪れる利用者にも人気のルートであるが、利用するにはある程度の時間や準備が必要である。このため、これらのルートを利用予定の方々の多くは、事前にウェブサイトなどで情報収集をしており、羅臼ビジターセンターにも問い合わせが多い。

羅臼湖やニッ池のようにルートの変更等がある場合には、利用者が混乱することのないように情報提供を行う必要がある。本事業におけるリニューアルでは、本格的な利用シーズンが始まる前に適切な情報提供を行うことができ、混乱の解消に寄与するものである。

5. 資料

資料 5-1. 平成 24 年 11 月 29 日の打合せ記録

平成 24 年 11 月 29 日 (木) 9:00~10:00		
出席者	羅臼自然保護官事務所	三宅
	知床財団	坂部、山本、眞々部
件名：平成 24 年度知床世界自然遺産地域における環境教育業務内容に関する打合せ		
内容：標記について打合せを行った。議題案に沿った主な内容は以下のとおり。		
1. HP 改修作業について		
○今後の作業の確認を行った。		
・羅臼ビジターセンターのホームページを改修することを確認した。		
・今後の作業については、入れる内容等環境省と都度協議し、素材や文章などを確認しながら進めて行くこととした。		
2. エゾシカ展示について		
○展示内容の確認を行った。		
・展示素材や内容等、環境省と知床財団でよく協議し、固めて行くこととした。		
3. ルサの展示物について		
○展示内容の確認を行った。		
・展示素材や内容等、環境省と知床財団でよく協議し、固めて行くこととした。		
その他：		

資料 5-2. 平成 25 年 1 月 24 日の打合せ記録

平成 25 年 1 月 24 日 (木) 16:00~17:00		
出席者	羅臼自然保護官事務所	三宅
	知床財団	坂部
件名：平成 24 年度知床世界自然遺産地域における環境教育業務内容に関する打合せ		
内容：標記について打合せを行った。議題案に沿った主な内容は以下のとおり。		
1. HP 改修作業について		
○現在までの進捗状況の確認及び今後の作業の確認を行った。		
・地図や写真、文章などを準備し、遅くとも 2 月末までにオーレンスにデータを渡し、 改修作業をお願いする予定。		
・写真、文章は環境省と協議して決定することとし、地図は財団が作成する。		
・羅臼湖ルールページの表題のつけ方など、相談をしながら内容をつめていく。		
2. エゾシカ展示について		
○現在までの進捗状況の確認を行った。		
・パネルを入れるイーゼルは、斜里町で工房を営む中西氏に発注済み。		
・エゾシカ剥製の台座製作は、町内の会社に依頼済み。		
・パネルの内容は素案段階で、増加による問題や対策などをメインとし、生態や知床以外のシカ 問題なども盛り込む予定。		
・A0 サイズ×3 枚で予定しているが、パネル内容を今後作成していく段階で 2 枚になることも考えられる。また、設置場所の状況等をみながら、設置枚数を判断する。		
・ただ見るだけのパネルではなく、来館者がアクションを起こすことによって見ることができる仕組みや、来館者に考えさせるような見せ方の工夫があるとよい。		
3. ルサの展示物について		
○現在までの進捗状況の確認および今後の作業の確認を行なった。		
・岬トレッキングから帰ってきた人から情報を収集するための記録媒体について考案中である。		
・展示する服について、現在収集中。環境省提供のザックとヘルメットも活用予定である。		
・普及啓発素材の中身についても現在考案中である。進捗状況は随時報告するとともに、内容についても都度環境省と協議しながら進めていく。		

平成 24 年度 環境省釧路自然環境事務所 請負事業

事業名：平成 24 年度 知床世界自然遺産地域における環境教育業務

事業期間：平成 24（2012）年 11 月 21 日～平成 25（2013）年 3 月 22 日

事業実施者：公益財団法人 知床財団

〒099-4356

北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531 番地

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。